

日本政治学会 会報

The JPSA News

NO. 11

May 1986

思い出すことども

山崎時彦

事務局の御依頼をうけ、或いはNo. 10の「事務局から、にかえて」の続きでも求められたのかと思っただ。管轄が異なるようでもあり、それは終りに少しふれることにして、一人の地方研究者の古い思い出をかかせて頂く。

学会の仕事の一端を手伝わせて頂いたのは二十年前近くも以前のこと。もとより私は創始の仕事に携わる年齢でも、枢機に参画するほどの立場でもない。昭和二五年の慶応大学で初めて学会に参加し、故南原理事長はじめ諸大家の先生方の末席に居るのが記念写真に残っている、というほどの年齢、立場の者であった。それだけに孤低（孤高に対する造語）の立場から一挙に目も眩む会合に出てとまどった。昭和四二年、私のお手伝いする仕事は企画。升味準之輔、征正夫、横山桂次の錚々たる先生方が幹事委員として欣然御力添え下さり、私の上京の機に集まって下さった。企画の大綱は皆で真剣に討論し、きめた。当時は原田鋼理事長、小松春雄事務局担当理事の時代で、特に接触の機会が多かった小松先生は事務中枢の立場から、兄のように、ドジの多い私を懇切丁寧に教えて下さり感銘した。初めてお会いしたも同然のかかわりだったにもかかわらず、前記の方々も含め、すべて学会運営のため、ということからおつき合い下さっていたにちがいない。発表して下さる方々の御希望はそのまま御取次ぎするようなやり方であったからずいぶん御迷惑をおかけしたことと今にして思う。私は金曜日の晩に夜行寝台で出て、土曜の朝雑用をすませ、午後企画の会合に出て、その夜の夜行で帰るという、今から見れば強行日程だが、余りへばらず、時に八重洲の地下の東京温泉で疲れをいやしたこともある。新幹線は、と思われようが、速度恐怖症で私は創業時代の新幹線を敬遠していた。ある雨の土曜日特別の理由（翌日の野球試合なのだが）でやむなく新幹線を利用しようとしたら「雨の日は新幹線は危険だ」と諸兄から云われ「まさか」と思いつつも、いやな感じで、それも「こだま」で

帰ったのは、こっけいでもある。もちろん企画そのものは前述のように真剣そのものでやり合っただ綱がきまった。ここでも小松先生の、時にユーモラスな御仲介が有難かった。他の諸委員には大綱を中心にかなりひんばんに御連絡を差上げた。私は電話より郵便を尊重していたので自筆の御連絡を差上げた処、ワープロも達筆の事務担当者もいない当時のこととて、一挙に私の難筆なるものが全国に（大げさだが）拡がって冷汗の思いであった。お会いした委員は率直に「よみにくい」とか、「何とか大意は理解できますがね」という風に云われ、恐縮した。この稿はどうかうまく印刷されてほしいものである。

（やはり御迷惑をかけてしまって申訳ない）

企画の際の参考に見せて頂いた資料のなかに横越英一前任担当理事の綿密な記録があつて大変参考になった。多少私も見習う気になって記録もつくってみたが、余り残す程のものもなく、今はもう散逸した。

関西では西川知一会員に幹事として協力して頂いた。当番大学関西学院大の足立忠夫、村西義一両会員を中心に仕事を助けて頂いた。昭和二五年学会の際、余り知友もないまま初めてお話しできたお若い村西氏と学会出張旅費のことなどおしゃべりしたことを思い出し、なつかしかった。研究会の前に司会をお願いした飯坂良明会員などに集って頂き打合せをした時も多くの方々欣然と御協力下さった。大過なくすんだ時はほっとしたが、小林文児会員などから率直な御批判を頂き、急所を衝いたことなので誠に有難く、かつ恐縮した。同氏は最近逝かれた。謹んで御弔意を表する。

紙数も少なくなった。地方の会員には東京に出張すること自体が楽しみの一つという方も多いと思うが、私も諸先輩会員諸兄とのおつき合いをなおしばらく続けさせていただいた。思い出す情景の一つは、中村哲理事長時代、法政大学総長室で中村先生の描かれた多くの虎の絵に囲まれて会議が行われたことである。ずっと

（次頁へ）

学 会 ニ ュ ー ス

1985年度決算承認される

3月29日に神戸大学で行われた理事会において木村・田中両監事より、1985年度決算についての監査報告がなされ、それに基づいて決算は承認された。

別会計(1) 名簿作成積立金		
収 入	前年度よりの繰越	52,080
	本年度積立金	150,000
	銀行預金利息	2,243
	計	204,323
支 出		0
差引残高		204,323 (円)

別会計(2) IPSA 関係積立金		
収 入	前年度よりの繰越	184,993
	本年度積立金	100,000
	銀行預金利息	8,045
	計	293,038
支 出		0
差引残高		293,038 (円)

IPSA 基金		
収 入	前年度よりの繰越	9,374,328
	銀行預金利息	476,663
	計	9,850,991
支 出	フランス大会出席旅費	812,400
差引残高		9,038,591 (円)

以前法政大学で開会されたときも同先生のスケッチ展を拝見できたが、私には勝沼か猿橋附近の秋景色の小品が忘れられない。そんな思い出にふけりながら会議に出ていた。スケッチ展の頃、歯痛に苦しんだことも思い出した。今は歯痛も余り起らない。

選挙制になって出られた山口定理事が暇々に仲介して下さったのか、有賀理事（現在唯一人の皆勤選手なのだ）など御協力下さって、数年前東大で東西対抗野球をやることになった。その時は雨天中止、私は東軍総監督兼選手石田雄会員を社研所長室におたずねして球談に一時を過した。翌年東北大で池田清会員などの御盡力で待望の第一回を開くことができた。何と長い一年であったことか。その後は既報の通り。今度は変なスタイルの投打が話題となって

1985年度 予算・決算			
		1985年度 予 算	1985年 決 算
収 入	1 前年度よりの繰越	5,406,965	5,406,965
	2 会 費 収 入	3,000,000	3,276,980
	3 雑 収 入	150,000	165,478
	4 年報特別基金返済	0	0
	収 入 合 計	8,556,965	8,849,423
支 出	1 研究会開催費	780,000	774,000
	研究会準備金	600,000	600,000
	報告者謝礼	180,000	174,000
	2 委員会経費	265,000	265,000
	年報委員会	55,000	55,000
	企画委員会	85,000	85,000
	文献委員会	65,000	65,000
	渉外委員会	50,000	50,000
	選挙管理委員会	10,000	10,000
	3 理事会経費	40,000	34,732
	4 IPSA学会分担金	356,000	294,361
5 事務局経費	660,000	472,995	
理事長通信費	20,000	20,000	
運営費	30,000	30,000	
人件費	360,000	360,000	
経常費	250,000	62,995	
6 名簿作成積立金	150,000	150,000	
7 IPSA関係積立金	100,000	100,000	
8 選挙管理費	300,000	222,023	
9 年報特別基金	300,000	300,000	
10 会報発行費	350,000	186,650	
11 予 備 費	5,255,965	54,300	
支 出 合 計	8,556,965	2,854,061	
差 引 残 高		5,995,362	

いることでもあろう。それにしても、余り想像力の豊かでない私だが、私の何ほどこか知っている中央大学以来（もちろん以前も、だが）の事務局担当大学の御骨折は大変なものだ、と想像できる。どなたも研究・授業などのその上に山積する学会事務があたりだからである。その当番大学にさらに多くの御迷惑をおかけしては、と気付き、途中から近くの非番大学に対抗試合の方を、御迷惑と知りつつお願いするように変更している。研究以外のことでも親睦できるのはうれしいことである。フル出場の現役からDHへ、さらに始球式投手、名目的監督へ、と逐次変化することはあっても、学会と共にこの方も長くおつとめしたいものである。

(一九八六・四・七)

学 会 ニ ュ ー ス

1986年度予算決定される

3月29日の理事会において、1986年度予算が別表のように決定された。

1986年度予算		予算額
収 入	1 前年度よりの繰越	5,995,362
	2 会費収入	3,100,000
	3 雑収入	150,000
	4 年報特別基金返済	0
	収入合計	9,245,362
支 出	1 研究会開催費 研究会準備金 報告者謝礼	800,000 600,000 200,000
	2 委員会経費 年報委員会 企画委員会 文献委員会 渉外委員会 選挙管理委員会	420,000 100,000 140,000 120,000 60,000 0
	3 理事会経費	50,000
	4 IPSA学会分担金	300,000
	5 事務局経費 理事長通信費 運営費 人件費 経常費	770,000 50,000 50,000 420,000 250,000
	6 名簿作成積立金	150,000
	7 IPSA関係積立金	100,000
	8 選挙管理費	0
	9 年報特別基金	300,000
	10 会報発行費	350,000
	11 予備費	6,005,362
支出合計	9,245,362	
差引残高		0

86年度研究会プログラム決定される

今年10月4・5日に龍谷大学で行われる研究会のプログラムが、ほぼ最終的に決定された。なお、特に今年の研究会における共通論題の企画について、企画委員長の山川会員より以下のようなメッセージをお寄せいただいた。

日本政治学会1986年度研究会の企画について

山川 雄 巳

学会事務局からのお求めがありましたので、今年の大会での研究会プログラムの共通論題の狙いについて説明させていただきます。

その性質上、共通論題には、広い範囲の会員が関心をもって討論に参加できるような一般的なテーマであること、原則として、それまでの研究会でとりあげられていない新しいテーマであること、学会が公式にとりあげ、一定の研究成果を確認することに意義があるような重要なテーマであること、などが求められます。

私たち1986年度企画委員会は、1986年度の共通論題を「日本の政治」とすること、またテーマの大きさと重要性にかんがみ、これを大会第1日、第2日通しての共通論題とすること、第1日は日本の国内政治についての、第2日は日本の国際関係について議論するという方針を決定し、理事会の御承認もえたわけです。この企画の趣旨は次のようなものです。

第1に、最近、日本政治はいま1つの重大な曲がり角にさしかかっているのではないかという問題意識が拡がっており、この社会的な問いかけに応えて、日本政治の現状を全体として診断し、将来展望を提出することは、現在、日本政治学会にとって大きい課題となっています。これまで日本政治の全体的な分析は、年報政治学で1953年と1977年の2回試みられたことがあります。すでにかなり以前のことであり、また、大会研究会の共通論題としてとりあげられたわけではありません。

第2に、1980年代に入って、京極、升味両教授のような大家の年来の研究結果が刊行されて反響を呼んだだけでなく、より若い世代の優れた日本政治分析が続々として発表され注目をあびています。新しい資料の発掘や、実証分析への理論モデルの適用も活発であり、日本政治研究に1つの画期がもたらされつつあるように思われます。共通論題に「日本の政治」をとりあげることは、こういう学問的状

学 会 ニ ュ ー ス

況を学会レベルで確認するという意義もあります。

第3に、日本政治への関心が高まるとともに、研究者間の見解の相違・分散もめだつようになってきています。これには現在の日本政治とそれへの評価のもつ微妙な性質も関係しているのかもしれませんが。共通論題の場が学問的相互刺激の場となり、日本政治の現状と可能性についての共通認識の形成を促進することを期待したいと思います。

第4に、現在の日本政治の1つの大きい特徴は国際化です。ですから、企画委員会としては、報告者や討論者の方々が、それぞれ主として日本の国内政治、または主として国際関係について議論されつつも、日本政治のリンケージ構造を充分考慮して発言されるであろうことを期待していますし、じつは、そのような発言をしてくださるような方々に報告・討論・司会を依頼したわけなのです。

なお、企画委員会としては、シンポジウム形式で「政治学とデータベース」をとりあげた政治学方法論の分科会をはじめ、分科会の構成にも意欲的にとりくんだつもりであることをつけくわえておきたいと思います。

最後に、この場所をおかりして、報告者・討論者・司会者を引き受けてくださった方々と企画委員諸兄にあらためて感謝の意を表します。また、その他の会員の皆様にも、研究会での討論にフロアから積極的に参加してくださるよう、お願いいたします。

(1986/4/20)

1986年度研究会プログラム

10月4日(土)

共通論題 午前

日本の政治(1) 国内政治

司会者 京 極 純 一 (千葉大学)
報告者 大 嶽 秀 夫 (東北大学)
蒲 島 郁 夫 (筑波大学)
討論者 升 味 準之輔 (都立大学)
伊 藤 光 利 (名古屋市立大学)

分科会 午後

(A) 政治学方法論

政治学とデータベース(パネル形式)

司会者 三 宅 一 郎 (神戸大学)
報告者 川 人 貞 史 (北海道大学)
秦 郁 彦 (拓殖大学)
藤 本 一 美 (国会図書館)
高 松 基 之 (帝塚山大学)

(B) 政治思想 最近の政治哲学

司会者 佐々木 毅 (東京大学)
報告者 足 立 幸 男 (京都大学)
川 崎 修 (北海道大学)
討論者 前 田 康 博 (千葉大学)
飯 島 昇 蔵 (早稲田大学)

(C) 政治過程 変動期の有権者行動

司会者 山 口 定 (大阪市立大学)
報告者 森 脇 俊 雅 (関西学院大学)
大 矢 吉 之 (帝国女子大学)
討論者 未 定
未 定

10月5日(日)

共通論題 午前

日本の政治(2) 国際関係

司会者 鴨 武 彦 (早稲田大学)
報告者 鈴 木 佑 司 (法政大学)
猪 口 邦 子 (上智大学)
討論者 関 寛 治 (東京大学)
藪 野 祐 三 (北九州大学)

分科会 午後

(D) 公共政策 最近の重要国家政策

司会者 中 村 陽 一 (中央大学)
報告者 山 口 二 郎 (北海道大学)
薬師寺 泰 蔵 (埼玉大学)
討論者 森 田 朗 (千葉大学)
谷 聖 美 (岡山大学)

(E) 政治史 日中戦争への道

司会者 坂 野 潤 治 (東京大学)
報告者 筒 井 清 忠 (奈良女子大学)
井 上 寿 一 (一橋大学)
討論者 古 屋 哲 夫 (京都大学)
北 岡 伸 一 (立教大学)

(F) 政治文化

司会者 内 山 秀 夫 (慶応大学)
報告者 河 田 潤 一 (甲南大学)
真 鍋 一 史 (関西学院大学)
討論者 中 野 実 (茨城大学)
織 完 (上智大学)

企画委員会からのお知らせ

前号のニューズレターで1986年度企画委員会の名簿が発表されましたが、次の方のお名前が落ちていました。

古瀬恒介会員（岡山大学）

追加訂正させていただきますとともに、ご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。

企画委員長 山川雄巳

85年度年報刊行される

85年度の年報政治学がこの3月に刊行されたが、今回は年報委員長を務めた河合秀和会員より以下のようなメッセージを頂戴した。

85年度年報政治学について

河 合 秀 和

1985年の政治学年報『現代日本の政治手続き』が刊行された。もともとこの号と限らず、われらが年報の売行きはあまりよろしくない。値段が高いせいもあるが、値段の高低にかかわらず飛びついて買うほどのものでもないという認識が、会員諸兄姉の間にも潜在していると聞く。しかし、ともかくも読んでみなければ、値段だけの価値があるかどうか判りようがない。価値がないと判れば、買い損、読み損ということになるが、これは凡百の書物について日常大いにありうることであって、別に驚くにあたらない。損を取り返すべく年報の改善を目指して年報委員会への圧力が高まり、執筆者、編集者が自薦他薦で名乗りを挙げてくるようなことになれば、学会内民主主義の観点から見てもことに喜ばしいことである。

何はともかく、会員諸兄姉に読んでいただくのが第一の肝要事であって、1985年号の内容を紹介してその一助とせよというのが、学会事務局からのお達しである。これは、いわば、年報『現代日本の政治手続き』のおひろめのための文章である。

けれども厄介なのは、一つに私が編集者として言うべき程のことは「まえがき」ですでに書いてしまっていることである。初めは30枚書くと豪語していたのが、最終的には枚数の都合で3枚になり、極端に簡潔に書かねばならなかった。そして今になって気付いたことだが、長いものを後で短くするのはやさしいが、短いものを長くするのはそれ程容易ではない。

もう一つに厄介なのは、執筆者各位がそれぞれに「政治手続き」論について定義を打ち出し、それにもとずいて担当分を書いておられることである。年報のための研究会が始った時、私は政治手続き論とはどんな観点かについて私の考えを簡単に説明した上で、「政治手続き論とは何かについて、もうこれ以上質問しないでほしい」と発言して、研究参加者諸兄の失笑を買ったものであった。執筆はしないが討論には加わるという資格で、松下圭一、内山秀夫、西尾勝らの3会員が参加し、それぞれに政治手続き観を述べてくれたことも、イメージを凝縮させていくのに大いに役立った。記録は取らないという約束で報告者、ないし質問に答えてくれる人を招いて行った研究会は、研究会参加者の間では非常に好評であった。こうやって議論を重ねている内に、「政治手続き」なるものが事実としてあるという共通の認識が生まれ、各人が「政治手続き」論の観点から一つ書いてみようという所にまでまとまったのである。

「政治手続き」論という発想にいたったのは、おそらく私自身が「作られたのではなく生成した」といわれるイギリス憲法の発展過程について、かねてから思いをこらしていたことが下地になっていたのであろう。発想の直接のきっかけ、いわばニュートンにとってのリンゴに当たるものは、私が自分の犬を連れて散歩していたことであり、それについては朝日新聞（1984年10月4日夕刊）の「仕事の周辺から」欄に「犬の政治学」と題して書いておいた。

「犬の政治学」に書いたのは、おおよそ次のようなことであった。私は自分の犬を、私の専制的意志のもとに「支配」しようとした。この支配は、やがて「慣行」とぶつかる。朝夕散歩に連れ出してこちらでも楽しんでいたものが、いったん慣行となると無理をしても時間通りに連れ出さねばならなくなり、雨でも風でも、二日酔いでも風邪でも出ていかねばならぬ。どうやら慣行から権利が生じるらしく、犬の方は時間がくると要求し、要求に応じないと抗議しているかのように見えてくる。慣習が規範化して「規則」になっている。こうして初めに支配者たらんとしたものが、慣行の奴隷、抗議の対象になり下っているのだ。

「支配」「慣行」「規則」、この三つが英語では「ルール」という一語で表現できることにはたと思いがち、通常は支配と和訳されるルールの奥行きに考えをめぐらすことになった。ルールという英語の単語の用法については、さし当ってオックスフォー

ド・イングリッシュ辞典でも引くしかないが、(過去の用法例を洗いざらい並べたこういう辞書を作ること、イギリスの政治文化との間の関係を考えてもよい)、ともかくこの三つの意味を含めた意味での「ルール」化された行動様式を、「手続き」と呼ぶことにしたのである。

政治手続き研究の対象に現代日本を選んだのは、私がこの方面ではかなり無知であることを自覚しており、したがってもう少し知りたいと思っていたからであった。無知を自覚していたおかげで、研究会の議長をつとめながら有識の人には恥しくて訊けないような素朴な質問を発することができた。

私個人の思いつきが何であれ、ともかくも年報執筆者はそれぞれ論文を書き、ここに年報が出ている。各人の中で手続き論の発想がどう論文にまで結実していったかは推測する他はないが、全体として読み返してみると分裂し混乱した手続き論が提出されていることになるかもしれない。それを学問的に統一するにも、「ある手続き」が必要であろう。

現代日本の政治手続き

まえがき	河 合 秀 和
I. 自由民主党の党首選出手続きルールと派閥権力	田 中 善一郎
II. 政党内・間の手続き	内 田 健 三
III. 強行採決と議長裁定	坂 本 孝治郎
IV. 日本官僚制の事案決定手続き	大 森 彌
V. 省庁間の政治手続き	今 村 都南雄
VI. 行政改革の手續き	増 島 俊 之
VII. 市民参加による用地選定手続きの改革	寄 本 勝 美
VIII. 中央政府と自治体間の政治手続き	田 村 明

文献リスト — 1984年 —

日本政治学会
文献委員会

学会報告

日本政治学会年録

日本政治学会事務局
岩波書店
定価 5,400円

渉外委員会からのお知らせ

1 世界政治学会 (IPSA) ニュース

IPSAは、1980年1月に International Political Science Review (IPSR) を発刊したが、同誌は、すでに比較研究の分野でのもっとも最新の研究情報源としての評価を確立しつつある。同誌は、IPSAの個人会員に配布されるが、大学図書館なども associate member として購読することができる。連絡先は、下記の通り。

International Political Science Association
c/o University of Ottawa
Ottawa, K1N 6N5, Canada

2 アジア・太平洋政治学会 (The Asian-Pacific Political Science Association) ニュース

第2回大会を10月16日から18日まで韓国ソウル市で開く。主題は、「変動する社会における政治的リーダーシップ」。同学会は、個人会員によって構成されており、参加が歓迎されている。連絡先は、下記の通り。

Organizing Committee for The Second
APPSA Conference
Prof. Oh Kie-pyong (Chairman)
Department of International
Relations
Sogang University
Suhdaemun-Ku, 120
Seoul, Korea

地域別研究会の紹介

今回は、首都圏を除く東日本全体の研究会を紹介します。といっても事務局に情報をお寄せいただいた研究会は、わずか3つにとどまりました。まだ紹介していない研究会がありましたら、事務局までご連絡下さい。特にない場合は、今回をもってこの企画を終了させていただきます。ご協力下さった会員の方々にお礼を申し上げます。

○中部地区政治学研究会

中部地区(愛知、三重、岐阜の三県が中心)在住の政治学会員を対象に、構成員約60名。

この半年間は例会を開催していない。

事務局 小野耕二(名古屋大学)

学 会 ニ ュ ー ス

○中部選挙研究会

中部地方における選挙の実証的研究及びそれに
関連する諸研究に関心を有する者を対象に、構
成員約 20 名（研究者以外にジャーナリストな
ども含む）。

この半年間の報告者及びテーマ

85 年 9 月 28 日 「戦後政治と選挙」

山田公平（名古屋大学）

86 年 3 月 29 日 「地方議員のリクルート
過程」

伊藤光利（名古屋市立大学）

事務局 小野耕二（名古屋大学）

○政治研究会

北海道の政治学研究者を対象に会員数 38 名。
平均年齢も比較的若く、自由闊達な雰囲気の中
で隣接分野研究者や実務家、ジャーナリストも交
えて、月に 1, 2 回の研究会を開催。

この半年間の報告者及びテーマ

85 年

10 月 11 日 「文化変容と政治変動 ——
オランダ 1970」

田口 晃（北海道大学）

11 月 1 日 「議会主義なき政党政治 ——
近代日本における立憲

政治の特質」

坂野潤治（東京大学）

11 月 22 日 「権威について」

小川晃一（北海道大学）

12 月 14 日 「“第三帝国”と“満州国”——
1936 年独満貿易協定の

成立過程」

田島信雄（北海道大学）

86 年

1 月 31 日 「ミッテラン政権の理念と現実
——現場からの報告」

坪井善明（北海道大学）

3 月 7 日 「現代政治哲学の諸問題 ——
藤原保信『政治理論のパラダ

イム転換』から」

川崎 修（北海道大学）

事務局幹事 山口二郎（北海道大学）

隣接学会案内

開催日が迫ったものもありご利用いただけないお
それもありますが、会員の皆様の関心の比較的高い
と思われる以下の四学会の研究会の予定をご案内し
ます。

○日本国際政治学会

5 月 17, 18 日 於 名古屋大学

10 月 18, 19 日 於 青山学院大学

○日本国際政治学会創立 30 周年記念国際シンポジ
ウム 9 月 5, 6, 7, 8 日 於 横浜国際会議場

○日本平和学会 6 月 8 日 於 法政大学

テーマ「海と空の平和」

○日本行政学会 5 月 10, 11 日 於 香川大学

○社会思想史学会 10 月 4, 5 日 於 国学院大学

会員の異動

会費納入のお願い

新年度のはじまりにあたって、1986年度の会費（3,500円）をお送り頂くようお願いいたします。学会規約第8条、理事選出規程第2条により、1984年度以降の会費を滞納されている方は会員資格を喪失したものとみなされ、今後の御案内をお送りすることができません。会費を滞納されている方は、折り返し納入されるよう、お願いします。なお、郵便振替の払込票は領収書のかわりとなりますので最低1年間は保存しておいて下さい。

1986年5月15日

発行 日本政治学会事務局

犬 童 一 男

〒657 神戸市灘区六甲台町

神戸大学法学部内

TEL (078)881-1212(内線3013)

郵便振替番号 東京0-84250

加入者名 日本政治学会